

## 追悼

2014年7月4日

三人の10代の少年達、アヤル、ギラッド、そしてナフタリがハマスのテロリストの手によって殺害された事で私たちの心は引き裂かれています。過去三週間、世俗派と宗教派は両方とも一致して詩篇の公の音読を通して祈り叫びました。この聖書の黙想(訳注:ユダヤ文化において、黙想は黙っているだけでなく、聖書の音読も黙想に含まれます)は彼らの記憶に書き込まれ、私たちの民のメシア待望も記憶されます。

## バルーフ・ハバー

アシェル・イントレーター

**詩篇 118:26** には短い箇所があり、それはユダヤ教とキリスト教世界両方にとって非常に重要な箇所と捉えられています。この箇所のヘブライ語は - **בְּרוּךְ הוֹבֵא**、バルーフ・ハバー、「**主の御名によって来る人に、祝福があるように。**」

イエシュアと弟子は「バルーフ・ハバー」と2回述べました。一度目は主のエルサレム入城(マタイ 21:9)、そして、もう一度は、主が長く宗教的指導者を非難された時でした(マタイ 23:39)。

イエシュアがエルサレム入城された時、主はロバに乗られ、それはゼカリヤ 9:9 の預言の成就でした。主が乗って来られた時、主の弟子は道に並びました。この宣言は、その時は成就しなかった招待、すなわち主がエルサレムで王でありメシアとしての地位に就かれるものでした。

**マタイ 21:9** 「そして、群衆は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。「**ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。**」

二つ目の「バルーフ・ハバー」は、来るエルサレムの崩壊と将来そこが再建されるというイエシュアの預言で使われました。ここでイエシュアはご自分を拒絶するパリサイ人を非難しました。そしてまた、民が「バルーフ・ハバー」と叫ぶ時、主が戻ってこられると主は約束されました。

**マタイ 23:37-39** 「ああ、エルサレム、エルサレム。(中略)見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。(中略)あなたがたに告げます。『**祝福あれ。主の御名によって来られる方に**』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

現代のユダヤ人の間ではこの箇所は有名で、1990 年代、ルバヴィッチ・ハシディーム(超正統派の一派)が、彼らのラビ、メナヘム・シュニアソン師がメシアであった述べた事で有名でした。彼は 1994 年 6 月(先月のちょうど 20 年前)に亡くなりました。彼に従う人々は、今でもエルサレムに集まっており、「王でありメシアとして来られる方に祝福あれ」と書かれた彼のポスターや写真をイスラエル中に張っています。

彼らは詩篇 118 をメシア詩篇と理解し、それは福音書でも理解されている通りです(ただし、もちろん彼らの言う「メシア候補」はすげ替えられています)。

宗教的ユダヤ人は聖書的な祝祭日に詩篇を読みます。イスラエルでは詩篇は危機や特別に必要とされた時にも読み上げられます。それゆえ、公に読み上げられる詩篇 118 は将来の国家的な危機として考えられるでしょう。

マタイ書の場合、イエシュアはエルサレム入城の際に詩篇 118 の別の箇所を引用されました。「家を建てる者たちの見捨てた石。それが礎の石になった。」マタイ 21:42。詩篇 118 は、誰でもメシアとしてエルサレムに迎え入れられるためには、まず「建築者」(宗教的そして政治的指導者)によって拒絶される「石」のようになるとしています。すなわち、最初に拒絶され、そして受け入れられるのです。

イエシュアのエルサレム入城は部分的な成就にすぎません。主が再びエルサレムに入られる日がやってきます。それは恐らく 国家的な危機の時であり、聖書的な祝祭日に公に読み上げられる詩篇、そして「バルーフ・ハババー」と叫ぶ、そのような日でしょう。

## ネタネル・ハウス 最新情報

ラケルとギラッド・ネタネル

最近、私たちは安息日の夕食に何人かの友を招きました。そのうちの一人は(H さん、音楽の先生)は 彼女の学校主催の音楽祭に招いてくれました。私たちは音楽祭を楽しみ、彼女の両親と会いました。それから少しして、私たちはシャヴオットの時、彼らを再び招きました。

彼女の父は私たちに尋ねました。「どのようにメシアニック信者たちは祈り、何をしているのか。」私は説明しました。私たちはタナハ(ヘブライ語聖書—旧約聖書の事)のユダヤ教のルーツに戻ろうとしているユダヤ人であると。「では、ミツヴォット(戒め)や安息日は」私は言いました。私たちは預言者 エレミヤ(31:31、33)が説明しているように、タナハに従って戒めを守っています。「見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。(中略)わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。」

その兄弟（かつて正統派の神学校に関わっていた人）は尋ねました。「あなたがたは、イエシュアがメシアであるという結論に、どのようにして至ったのか。」この時点で、私が聖書から預言の箇所を指摘しはじめたので、彼は私たちの会話を録音し始めました。私たちの会話は3時間続きました。どうか続けて、イスラエルの人々に福音を分かち合う私たちのためにお祈り下さい。

## ヤッド・ハシュモナに対するホモ・レズビアンによる攻撃

事務局長アイレット・ローネン

二年前私たちのキブツはヤッド・ハシュモナで「結婚式」を許可しなかったレズビアンらによって訴えられた事で苦しめられました。最近私たちの上訴は棄却され、それから、今までになかった新しい攻撃の波がemail、インターネット、Ynet、Mako、そしてソーシャルネットワークを通してやってきました。

他のホモ・レズビアンらは、ここでイベントが開けるように要求しており、その結果として私たちがこの施設を閉鎖し、スタッフを解雇するように強要するものでした。私たちは、この施設をよりはっきりと宗教的な組織へと定義し直すように、神が私たちに呼びかけておられるのを感じました。そうすることによって、ホモ・レズビアンのイベントに関して、法的な立場を変える事ができるからです。私たちはこれをするを以前は躊躇してきました。それは、私たちはより広く公に開かれていることを望み、そして非営利団体として資金集めをする必要から自由でありたかったからです。

興味深い側面として、私たちは正統派ユダヤ教組織からコンタクトを受けた事です。彼らは、私たちがイエシュアを信仰している事で反対してきているのですが、それにもかかわらず彼らはホモ・レズビアンからの攻撃に対して私たちを支援したいと言ってきたのです。あるラビが私に言いました。「彼らは今君たちを攻撃しているが、我々は知っている。我々が次の標的となることをね。だから私たちは君たちと共に立とう。」

## イスラム教過激派 について

この短い動画で、ブリジット・ガブリエルさんは、「穏健なイスラム教徒」に関する事でイスラム教の大学生からの 質問に答えています。ブリジットさんは答えました。イスラム教徒の 80%は過激派ではありませんが、残りの 20%のイスラム教徒は過激派であり、彼らは殺し、虐殺することをよしとしています。平和的な大多数というのは見当違いであると！英語で見る場合、こちらを[クリック](#)して下さい。